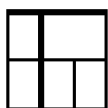


Programs for Children



豊田市美術館の
子どものための
プログラム



Toyota Municipal Museum of Art
豊田市美術館

美術を学ぶ
美術で学ぶ



学校の先生方へ

この冊子では豊田市美術館の子ども向けプログラムを紹介します。

豊田市美術館では美術について学び、また美術をとおして広くさまざまなことを学ぶことができる子ども向けのプログラムを実施しています。作品との出会いが豊かであるとき、鑑賞者は作品をよく見て、よく考え、感じ入り、ときにその感動を人に伝えもします。その過程は、世界を知り、自分を知るチャンスに満ちています。当館ではとくに、子どもが作品にじっくりと向き合い、人と言葉を交わしながら理解を深め、同時に自分たちの経験や知識と結びつけることで、美術をとおして広く世界について学ぶことができるようなプログラムの実践につとめています。

これから紹介するプログラムでは学校との連携がとても重要です。本冊子が学校と美術館の連携の一助となり、子どもたちが美術について、そして美術をとおして学びを広げ深めていくきっかけになることを願っています。

豊田市美術館は こんなところ



1



3



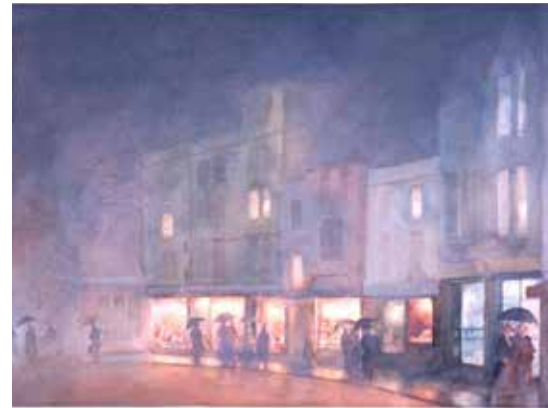
4



2



5



8



9



10

コレクション

豊田市美術館は1995年に開館しました。近現代の美術やデザインを中心に、国内外の作品約3,600点を所蔵しています。

20世紀初頭に活躍した岸田劉生や菱田春草、豊田市出身の牧野義雄から現代の奈良美智やヤノベケンジまで、日本の美術の流れを知ることのできる作品が所蔵されています。

また、19世紀末からのグスタフ・クリムトやエゴン・シーレといったオーストリアの作家たち、ルネ・マグリットなどのシュルレアリスム、第二次世界大戦後のヨーロッパの現代美術などが特徴的なコレクションとして知られています。

1. コロマン・モーザー 《アームチェア》1903年頃
2. 高松 次郎 《赤ん坊の影 No. 122》1965年
©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
3. 岸田 劉生 《麗子洋装之図（青果持テル）》1921年
4. グスタフ・クリムト 《オイゲニア・プリマフェージュの肖像》1913/14年
5. ヤノベケンジ 《ラディエーションスーツ・アトム》1996年 ©YANOBE Kenji, 2022
6. トニー・クラッグ 《スペクトラム》1979年
7. リチャード・セラ 《ダブル・コーンズ》1988年
8. 牧野 義雄 《ブロード通り》1909年
9. 横山 奈美 《LOVE》2018年 ©YOKOYAMA Nami, 2022
10. 奈良 美智 《Through the Break in the Rain》2020年 ©NARA Yoshitomo, 2022
11. コンスタンティン・ブランクーシ 《雄鶏》1924年（1972年鋳造）
12. ダニエル・ビュレン 《定まらないフォルムの絵画》1966年 PHOTO SOUVENIR:
©DB+ADAGP PARIS

5



12



11



7



6

4

建 築

豊田市美術館の建築は建築雑誌で日本でいちばん美しいと評されるなど、その端正な佇まいは開館以来多くの人々を魅了してきました。設計は国内外で活躍する谷口吉生氏。水平垂直のグリッドが印象的な外観と、明るく開放的な展示室が特徴的な同氏の代表作です。



展 覧 会

展示室ではコレクション展と企画展とをそれぞれ年4回程度開催しています。コレクション展は、時代や地域を超えた作品の組み合わせによって訪れるたびに新しい発見が生まれるような展示構成が特徴です。企画展としてはこれまで、国内外の名品を紹介する展覧会や、現代美術作家と協力して新作を作り上げる展示を行なってきました。展覧会にあわせた講演会やワークショップも随時開催しています。



ソフィ・カル 《盲目の人々》1996年

子どものための プログラム

豊田市美術館では学校と連携した子ども向けのプログラムを行っています。

ここで紹介する代表的なプログラムを軸に、学年や教科・単元にあわせて内容を調整します。プログラム内容についての相談は随時受け付けています。

プログラムの実施にあたっては、あらかじめ児童・生徒に美術館での鑑賞のマナーを伝え、他の来館者に学校での来館を周知するなど、子どもたちが展示室で発言しやすい環境を整えています。

[プログラム]

1. 対話型鑑賞…………… 9
ひとつの作品を対話によって掘り下げる
2. ギャラリーツアー…………… 13
作品ガイドボランティアと展覧会を巡る
3. 出張プログラム…………… 14
教室で美術と美術館に親しむ
4. アーティストによるプログラム…………… 14
作家にきく、作家とつくる

[参加者の声]

- 豊田市美術館を訪れて…………… 15
愛知教育大学附属岡崎中学校 那須弘典先生

対話型鑑賞



展示室での対話型鑑賞

ひとつの作品を 対話によって掘り下げる

展覧会やコレクションから1点を選び、作品ガイドボランティアが案内役となって作品をじっくりと鑑賞します。

ボランティアが投げかける問いに答えながら、作品について気づいたこと、考えたことを言葉にし、共有しながら美術作品の鑑賞を深めていきます。

【作品ガイドボランティア】

1996年の活動開始以来、作品について学び、展示室で作品と鑑賞者をつなぐ役を担ってきました。現在約30名が登録し、作品をより深く、面白く鑑賞できるようサポートする活動をしています。

作品ガイドボランティア
のつぶやき

対話型鑑賞のトークーをつとめたとき、たとえば作品が今から100年ぐらい昔の作品だとしても、今、作品を観て思ったこと、感じたことを新鮮に受け止めて、その場に集まった人たちと意見交換ができるのが、トークーとしてとても嬉しいです。
(作品ガイドボランティアNさん)



「荒木経惟 往生写集 顔・空景・道」(2014年) 展示風景

ある日の鑑賞会

たとえば…

・小学校3・4年生向けの鑑賞会

・参加者数:20人程度

 作品ガイドボランティア 児童

対象作品

グスタフ・クリムト
《オイゲニア・プリマフェージュの肖像》
1913 / 14年

ポイント

【導入】

最初は簡単なことから、少しずつ鑑賞を深めていきます。

 こんにちは。今日はひとつの作品をみなさんと一緒に見ていきたいと思います。今日見る作品はこちらです。さて、なにが描かれているのでしょうか？ こっちを見てる女の人！ お花畑に立ってる女の人！ お花畑はどこにある？ 女の人の足のところ、あと後ろに花壇がある。 (指を差しながら) ここと、ここがお花に見えたんですね。ということはここはお庭かな？ わたしは後ろの緑のところは窓だと思いました。建物？塀？があってそこから奥が見えてる。 別の見方ですね。ここのかまぼこ型のところから向こうの景色が見えてるということですね。 ぼくはこの人は寝てるのかと思った！緑のクッションで。

なるほど、たしかに寝ているようにも見えますよね。

 わたしは座っていると思いました。ちょっと腰が折れてるみたいだったから。 服が変でわかりづらい！

服に注目した人ははじめてですね。どんな風に変かな？

 え、形も変だし、色も変！なんか、柄がバラバラで、どういう服なのかわからない。

たしかに不思議ですよ。ではみんなで考えてみましょう。みなさんどんな服だと思いますか？

 ワンピースかドレスみたい。 花柄のドレス！

花柄？

 うん、花壇の花と似ているから！

なるほど、どういうところが似ていると思うかみんなに教えてくださいませんか？

 色はすごくカラフルで、形が潰れていて、ぐにやっとなっているところ。いっこずつが飽みたい。顔はふつうだけど。

すごいいいところに気づいてくれましたね。さっきの人も、色がバラバラっていつてくれたけど、色が粒のように、ひとつずつ分かれていますよね。けど、顔は“ふつう”ですね。では、この人はどういう人なんでしょうか？

 お姫様とか、お金持ちの人。

どうして？

 宝石のついた指輪してるし、ブレスレットもしてるから。 ばくもお金持ちだと思う。少し笑っていて、ちょっとぼーっとしてる。 うーん、わたしは少し悲しそうに見える。横の鳥がながさめてるみたい。 そうかな、ぼくは嬉しそうというか、自信満々って感じだと思う。それで、鳥が宝石を狙ってるところ！

ポイント

【鑑賞】

感想や疑問を共有しながら、なるべく細かく作品を見ます。どうしてそう思ったのかも聞くようにします。

ポイント

【問いかけ】

作品をより深く考えるために問いかけをします。

作品ガイドボランティアのつぶやき

5年生を案内したとき。《オイゲニア・プリマフェージュの肖像》で「どんな人だと思う?」。手を挙げた少年、あっさり「死んでる」。驚いた、焦った、どうしよう…「どうしてそう思ったの?」。少年「周りが輝いていて、天に昇っていく神様みたいだから」。なるほど!その場に居合わせたお客様からも拍手。一見乱暴な言葉の奥の瑞々しい感性に驚きました。(作品ガイドボランティアTさん)





不思議な表情をしていますよね。いろいろな想像ができます。横の鳥の存在も気になりますね。
ここまでみなさんとお話ししてきた作品は、グスタフ・クリムトという人がいまから100年ほど前に描いた《オイゲニア・プリマフェージュの肖像》という作品です。この時期のクリムトはさきほどみなさんが気づいてくれたように、さまざまな色を使ったあいまいな部分と、顔や手のように本物らしく描く部分のちがいが大きい絵を描いていました。さいごに、この絵をもう一度見てみましょう。思うことを教えてください。

みんな話を聞いて、立っていると思っていた人が寝ているかと思いました。もしかしたら、浮かんでいるのかもしれないと思いました。どこにいるのか、うしろがぼんやりしてるからいろんな風に見える。

そうですね、浮かんでいるようにも見えますね！それから、とっても鋭い発見。背景の描き方でいろいろな見方ができるようになっているとも言ってくれました。ほかの人はどう思いますか？

わかった！絵のこっち（手前に）結婚相手がいるんじゃない？

絵を描いている人を見てるんじゃないかな。

絵の外側までも、どんどん想像が膨らみますね。みなさんと一緒にこの作品を見てきて、たくさんことに気づくことができました。絵具の使い方に注目してくれた人もいたし、この人や場所についてもみんな意見をいってくれました。鳥の話はする時間がなかったけど、とっても気になりますよね。こんなにいろいろな想像ができたのは、みなさんがよく観察して、よく考えてくれたから。そして、よくお話ししてくれたからです。こうしてみんなで話しながら見るのも面白いと思いませんか？では、次の作品も見に行きましょう。

ほんと目は開けたまま寝てるんじゃない？あ、花畑のなかで寝てるのかも。

じつは天使なんじゃない？浮いてるし。精霊？みたいな。

え、でも指輪してるから結婚してるのかと思った。

じゃあ幽霊！



【情報提供】

話が深まってきたら、作品にとって重要な事実関係や技法などについて伝え、さらに作品にじっくりと向き合います。

【まとめ】

人と一緒に見ることで作品を自分（たち）の視点で楽しめたら鑑賞会は成功です。

ポイント

ポイント

対象作品について

グスタフ・クリムト(1862 - 1918年)は19世紀末ウィーンを代表する作家で、美術や工芸、建築、デザインなどを総合的に革新しようとするウィーン分離派の中心人物でもありました。クリムトにとって服は重要なモチーフであり、注目すべきポイントです。また、この作品を描いた時期、晩年に差し掛かったクリムトは、鮮やかな色使いと大胆なタッチを多用しつつ、表情や手だけを写実的に描いたことで知られています。上記の例のように子どもにも親しみやすく、豊田市美術館のコレクションを代表する作品として、見学の際には対話型鑑賞やギャラリーツアーのなかで取り上げることが多いです。

ギャラリーツアー



ジュゼッペ・ペノーネ《まぶた》1989-91年

作品ガイドボランティアと 展覧会を巡る

ボランティアとともに展覧会を巡り、作家・作品に関する情報やポイントを解説しながら、ところどころで対話型鑑賞を織り込むことで、展覧会をより深く鑑賞できるようにガイドします。

ツアーの例

※45分／1グループ10～15人程度が望ましい（時間・人数は応相談）

導入

5分

作品解説①

10分

作品解説②+ミニ対話型鑑賞

15分

作品解説③

10分

まとめ

5分

作品ガイドボランティアのつづき

展覧会をガイドしながらまわる時、必ず私の真ん前でキラキラした目で話を聞いてくれる子がクラスに一人二人はいます。もしかしたら将来アーティストとして、この子の作品が豊田市美術館に並ぶのでは？と楽しい想像をします。（作品ガイドボランティアSさん）



出張プログラム



ボランティアによる小学校での対話型鑑賞

教室で美術と美術館に親しむ

学校に学芸員や作品ガイドボランティアが出向いて、プロジェクター等を用いて行う対話型鑑賞や、展覧会の概要をお伝えするトークも行っています。美術館への来館を予定している場合は、事前に学校でウォームアップすることで美術館での学習がより充実したものになります。

アーティストによるプログラム



多田圭佑氏によるワークショップ「絵の具じっけんしつ」2021年

作家にきく、作家とつくる

作品制作の一部をじっさいに体験するワークショップや、作家がどのような視点で作品をつくられているかを聞くトークなど、美術をより具体的かつ身近に感じる体験ができます。

参加者の声



玉山 拓郎《Eclipse Dance》(2020年)を見る生徒たち

豊田市美術館を訪れて

愛知教育大学附属岡崎中学校
那須 弘典 先生

2020年9月に、美術科授業「わからないものへの挑戦～現代アート鑑賞～」の一環として豊田市美術館を訪問し、企画展「久門剛史ーらせんの練習」や開館25周年コレクション展などを鑑賞させていただきました。作品を見た子どもたちは、「空間に入ること、言葉では言い表せない何かを感じた」「表現や素材を選んだ作者の探究の軌跡に目を向けることの大切さを知った」などの感想を述べ、美術館で鑑賞したことによって新たな視点を得た様子がうかがえました。現代アートは、素材やジャンルを越えた多種多様な表現で鑑賞者に問いかけてくるアートであるため、鑑賞者が作品と対峙し

たときに、「意味がわからない」「これは本当にアートなのか」という思いを抱いてしまうことが多いものです。子どもたちも、単元の始めは「わからない」から入りました。しかし、実際に作品が置かれた空間に入り本当の意味で作品に対峙することで、現代アートを「自分自身を見つめる契機となる存在」として認識し、自分なりの答え（見方）を導き出すきっかけにすることができました。こういった本物と出会うことができる貴重な機会を与えてくださった豊田市美術館の方々に感謝いたします。

作品ガイドボランティア
のつぶやき

自宅から1時間以上かけ、道を間違えないように時間に遅れないようにと学校に到着し、初めての授業。そんな緊張した気持ちは子どもたちと美術館のお話をし始めたら吹っ飛び、あっという間の1時間。そのときの子どもたちの好奇心いっぱいの顔を忘れることはありません。
(作品ガイドボランティアKさん)



子ども向けのプログラムは
随時相談を受け付けています。
美術館までご連絡ください。
また、展覧会や各種催しの見学についても
お気軽にお問い合わせください。

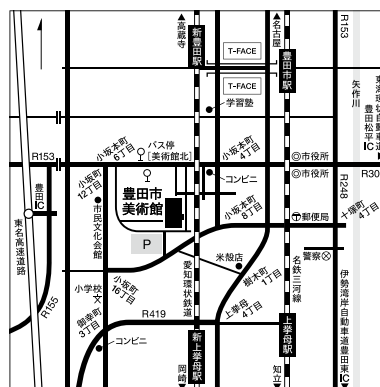


お問い合わせ

E-mail : bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp
Tel : 0565 - 34 - 6610(代表)

休館中はメールでお問い合わせください。
折り返しご連絡いたします。

豊田市美術館
愛知県豊田市小坂本町8-5-1
www.museum.toyota.aichi.jp



[名鉄三河線豊田市駅・愛知環状鉄道新豊田駅より] 徒歩15分
[名鉄三河線上挙母駅・愛知環状鉄道新上挙母駅より] 徒歩20分
[お車ご利用の場合] 東名高速道路豊田ICより約15分
東海環状自動車道豊田松平ICより約15分
伊勢湾岸自動車道豊田東ICより約20分

2022年2月発行